

■回勅『ラウダート・シ』とは？

2015年5月24日に教皇フランシスコによって発表された社会回勅で、日本では2016年8月に日本語訳が出版されました。2013年6月に発表された『信仰の光』に次ぐ、教皇フランシスコの2つめの回勅ですが、『信仰の光』は前教皇ベネディクト16世が準備していたテキストを引き継いで完成させたものなので、教皇フランシスコ独自の回勅としては最初のものと言えます。

本回勅は環境問題を中心にして、それと密接に結びつく貧困、経済、政治、文化、日常生活などあらゆる諸問題について広い視野を持って考察されています。本文中で取り上げられているように（『ラウダート・シ』3-6）歴代の教皇も環境問題に関心を示し、「世界平和の日メッセージ」の中などで言及してきましたが、環境問題に対するカトリック教会としての責任を回勅全体で述べたのはこれが初めてです。

【社会回勅、社会教説とは？】

回勅の中でも特に社会問題をテーマにしたものを指します。『ラウダート・シ』は、環境問題やそれにかかわる社会の問題を扱っているので社会回勅とすることができるでしょう。

本文中に「今、教会の社会教説に加えられるこの回勅」（『ラウダート・シ』15）とありますが、「カトリック教会の社会教説」とは社会に生きる人間が直面するさまざまな問題—政治的、文化的、経済的、社会的な問題—を取り上げ、教会の信仰と教義に照らしながら、それらの問題をどうとらえるべきか、また問題の解決に向かってどのように取り組むべきかを示したものです。

■タイトル『ラウダート・シ』に込められた思い

回勅や使徒的勸告などの教皇が出す公文書のタイトルは、一文めの最初のフレーズをそのまま取って付けられます。多くの文書はラテン語で書かれるので、タイトルもラテン語のことが多いです。（たとえば『ラウダート・シ』の前に発表された使徒的勸告『福音の喜び』の原タイトルは“*EVANGELII GAUDIUM*”というラテン語ですが、それは最初の文章がこの言葉から始まっているからです）

本回勅の冒頭は“*Laudato si', mi Signore*”（ラウダート・シ、ミ・シニョーレ）「わたしの主よ、あなたはたたえられますように」というフレーズで始まっています。これはアシジの聖フランシスコの祈りである「太陽の賛歌」から取られており、古いイタリア語です。教皇フランシスコは聖フランシスコが使っていた言葉を翻訳せず、そのまま使いました。そこに込められた思いはなんでしょうか？「太陽の賛歌」は太陽や月や星や、あらゆるものの活動の中に神のいつくしみを感じ取り、神を賛美する内容です。

また日本語訳を出版するにあたり、日本の司教団はタイトルを『ラウダート・シーともに暮らす家を大切に—』としました。先ほど例に挙げた使徒的勸告は『福音の喜び』と日本語に訳したタイトルがつけられていますが、『ラウダート・シ』は日本語に訳さずカタカナになっています。教皇フランシスコが聖フランシスコの言葉をそのまま使ったように、

聖フランシスコの祈りに私たちも思いを寄せることができます。また聞きなれない“ラウダート・シ”という言葉にまず興味を持つかもしれません。

タイトルについてや、教皇フランシスコがどういった経緯でこの回勅を書かれたのかを考えてみるのも、本回勅を読む助けとなり、また深まりを与えるのではないのでしょうか。

■『ラウダート・シ』を読むためのヒント（資料①②参照）

本回勅は246の項目と2つの祈りからなっています。最初の1-16の「序」は教皇フランシスコの思いが特に込められているので時間をかけて丁寧に読むことをおすすめします。2つの祈りは読書会をする際などに特に祈られると良いでしょう。「わたしたちの地球のための祈り」はキリスト者でない人とも共に祈ることができる内容です。

15項では本回勅の構成について触れています。第1章から第6章まで、おおまかにどのようなことが書かれているかを知ることができます。また各章のはじめには小見出しのついていない項目がいくつかあります（例：第1章→17、18、19）。ここではその章の中でどのようなことを見ていくかについて書かれているので、それを頭に入れて読み始めると良いかもしれません。このような構成をわかりやすくするために目次のプリント（資料②）を作成しましたので活用してください。

また回勅全体を通して繰り返し出てくるテーマが10個ありますが、それについて16項で書いています。このテーマについて意識しながら読み進めることもできます。

本回勅の注を見ると、本文中に多くの注がつけられていることがわかります。引用・参照されている文章を読んでみることも良いでしょう。第2章では日本の司教団のメッセージ（日本司教協議会『いのちへのまなざし』）も引用されています（注56）。

【使徒的勸告『福音の喜び』とのつながり】

本回勅の前に発表された使徒的勸告『福音の喜び』第4章「Ⅲ 共通善と平和な社会」の中で教皇フランシスコは平和と正義と兄弟愛をもって国民形成を進めていくための「4つの原理」について書いています（『福音の喜び』221-237）。「時は空間に勝る」「一致は対立に勝る」「現実は理念に勝る」「全体は部分に勝る」、この4つの原理が『ラウダート・シ』の中でも出てきます。どちらも教皇フランシスコが書いたものですから、一貫した教皇フランシスコの物事の見方が表れており、そのものの見方に学ぶことができます。それぞれの原理はどういうことを表しているのか、それを考えながら読んだり、分かち合いをするのも良いでしょう。

教皇フランシスコは『ラウダート・シ』を発表した後に、9月1日を「被造物を大切にする世界祈願日」として定め、正教会や他の教会とともに記念すると述べています（日本では9月第一日曜日）。2016年9月1日に発表された「被造物を大切にする世界祈願日」メッセージは『ラウダート・シ』と同じ構成で書かれているのでわかりやすく、参考になります。